

2023年11月16日

2023年度（2024年3月期）中間期 決算説明会 質疑応答要旨

Q1	JISマーク表示の一時停止問題について、ご説明の通り見通しが難しいことは理解する。また、その中でのシナリオを提示されてはいるが、結局のところ影響が大きそうなのかそうでないのかのイメージが全くわからない。もう少しヒントが欲しい。
A1	説明の繰り返しになってしまうが、現在合理的に影響度を見積もることができないため、それ以上は申し上げられない。但し、会社が傾くような状態になることはないと考えている。
Q2	例えば「他製品に及ぼす影響」として記載されている事項について、既にそういうことは起こっているのか。
A2	今現在は、そうした影響はそれほどないという状況にある。
Q3	5月の説明会時に、国内塗料の一般用分野のうち数量で構造物が7割と聞いた記憶があるが、先ほど一般用分野は8割が構造物との説明があったと思う。半年間で何か変化があったのか。
A3	スライド4で申し上げたのは、一般用分野の前年同期比での11億42百万円の増収のうち、構造物が約8割という意味でお伝えした。また、一般用分野の売上比率として構造物は7割弱である。
Q4	構造物用塗料は前年同期比で伸びているのか。また、その伸びを数量と単価で分けるとどうか。
A4	前年同期と比べても構造物用塗料は伸びている。分野単位での数量、単価別の増減までは開示していないため数字はお伝え出来ないが、構造物に限らず売上高の増加はほとんどが単価の上昇によるものである。
Q5	今回の決算に限らず、塗料事業の販売数量はGDPなどに連動するのか。また、現中計は売上を伸ばす計画だったと思うが、その成長は数量、製品ミックス、価格上昇といったものの何をメイントレンドとして伸ばす計画だったのか。
A5	塗料産業の場合は他産業の市況が遅れて反映されるため、GDPと直接連動するとは考えていない。 中計においては、一昨年来の急激な原材料価格の上昇に対して、まずは適正な価格へ是正しなければいけないというのがあった。一方で、量に関しても生産効率を追求するためには一単位あたりのコストを薄める必要があり、メーカーとしてはどちらも狙った計画になっていた。ただし、結果的に単価は克服する事ができたものの、数量面は例えば工業用の住宅着工件数が全体として大きく減った影響で建材用塗料が想定以上に伸び悩んだりやや不満を残したまま終わりそうである。

Q6	次期中計へのリクエストとして、数量などの増減イメージが分かる指標や施策説明があればありがたい。
A6	<p>今まさに次期中計策定のプロジェクトを進行中であり、今日のところはスライド21程度しか出せていないが、見せ方は工夫したいと思う。</p> <p>一つ言えるのは、今までは積み上げベースのフォアキャスト方式で既存事業をここまで持っていこうという発想で、ソリューション営業をどうするか損益分岐点をどうするという話にしていたが、次期中計においては創立100周年の2029年度に売上高1,000億円、営業利益100億円というあるべき姿からのバックキャスト方式で策定している。そのためには既存事業の他に何が重要かとか、これまでとは違うアプローチの仕方で今進めている状況。その中で出来上がったものについて、今日いただいたご要望も含めてどのような見せ方が適切かを検討する。</p>
Q7	照明機器事業の説明で、塗料事業とのコラボに関する取り組みが書かれていた。とても興味があるのだが、もう少し具体的に話せることはないか。
A7	<p>今までは商業施設やホテルなどで用いられる照明機器を中心に営業をかけていたが、住宅分野、特にマンションなどをより高級に見せ、より付加価値をつける市場を模索している。当社塗料が塗られた建材がより美しく、高級感が感じられるような照らし方をするというコラボレーションを検討しており、徐々に実績が出つつある。</p> <p>照明はこれまでほとんどプロ向けの取引で、デザイナーや内装業者からの非常に評判が良い。口コミで住宅用のヘッドボード照明やフットライト、あるいはマンションのエントランス照明等の高級感が重視されるところに徐々に採用され、手応えがある。そういう中で販路も共通するところがあるため、連携を進めている。</p>
Q8	照明機器のUVランプについて、半導体関連の紫外線殺菌用途が増えていると説明があった。一般的には今半導体関連の製造装置は厳しい状態にあるなか、この上期が良かった背景と、この先の見通しを知りたい。
A8	半導体製造装置に欠かせない洗浄装置で用いられる超純水を作るために、当社の紫外線殺菌用のUVランプが使われている。これがある会社に評価され、発注が非常に増加している。市場動向に左右されるほどの売上規模ではなく、引き続きある程度期待できるという認識。
Q9	照明機器子会社の新社屋について、新本社とは別で物流センターを設けるのか。
A9	現在平塚にある本社を伊勢原へ移す。昨年土地を買って今年着工しており、ここに物流倉庫もまとめて作り、全体としての効率改善を図る。したがって新社屋と別ではなく、新社屋内に物流センターを付加するイメージ。

以上